

豊田市 第3期SDGs未来都市計画  
(2025～2027)

人口減少社会においても持続可能なまちをめざして

豊田市

## < 目次 >

### 1 将来ビジョン

- (1) 地域の実態.....1
- (2) 成果と課題.....6
- (3) 2030年のあるべき姿.....13
- (4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット.....14

### 2 自治体SDGsの推進に資する取組

- (1) 自治体SDGsの推進に資する取組.....22
- (2) 情報発信.....34
- (3) 普及展開性.....35

### 3 推進体制

- (1) 各種計画への反映.....36
- (2) 行政体内部の執行体制.....37
- (3) ステークホルダーとの連携.....38
- (4) 自律的好循環の形成.....40

### 4 地方創生・地域活性化への貢献.....42

# 1 将来ビジョン

## (1) 地域の実態

### ① 地域特性

#### 地理的条件

本市は、高度経済成長期以降、自動車産業の拠点性の高さを理由に、市外から多くの人々が転入し、まちを形成してきたという特性がある。また、昭和と平成の市町村合併を経て、愛知県の約6分の1を占める広大な面積と多様な地域を有するまちとなった。そうした背景から、本市で生まれ育った市民に加えて、国内外から就職等を機に本市へ移り住んだ市民も含めて、人々が暮らしやすいまちを目指し、様々な取組を進めている。

また、都市部<sup>1</sup>と山村部<sup>2</sup>の共生に向け、交流を通じた関係人口<sup>3</sup>の創出や新たな関係性によるまちづくりが展開されている。

#### 人口動態

本市の人口は、2008年のリーマンショック以降、約42万人を横ばいで推移してきたが、2019年をピークに減少に転じている。国立社会保障・人口問題研究所の2023年推計によれば、2050年には約37万人となることが予想されている(図表第1)。

本市の人口動態のうち、自然動態は、これまで自然増加で推移してきたが、2021年から自然減少に転じている。晩婚化・未婚化の進行を踏まえると、出生数の更なる減少が予測され、自然減少が進展し、まちの活力維持が困難になるリスクが想定される(図表第2・第3)。

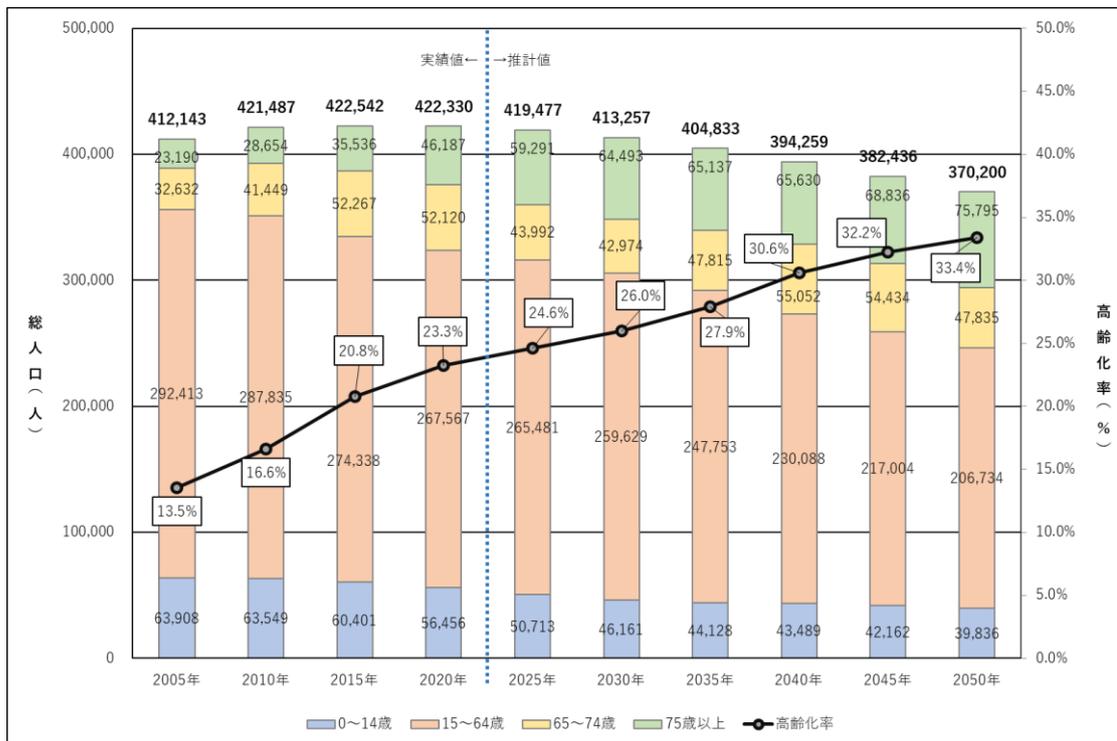
---

<sup>1</sup> 都市部:本市の中でも人口や暮らしに必要な機能が集まっている地域を指す。

<sup>2</sup> 山村部:本市の中でも山地や森林など自然環境を有する特徴を持つ地域を指す。

<sup>3</sup> 関係人口:移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々

(図表第1)本市の将来人口推計

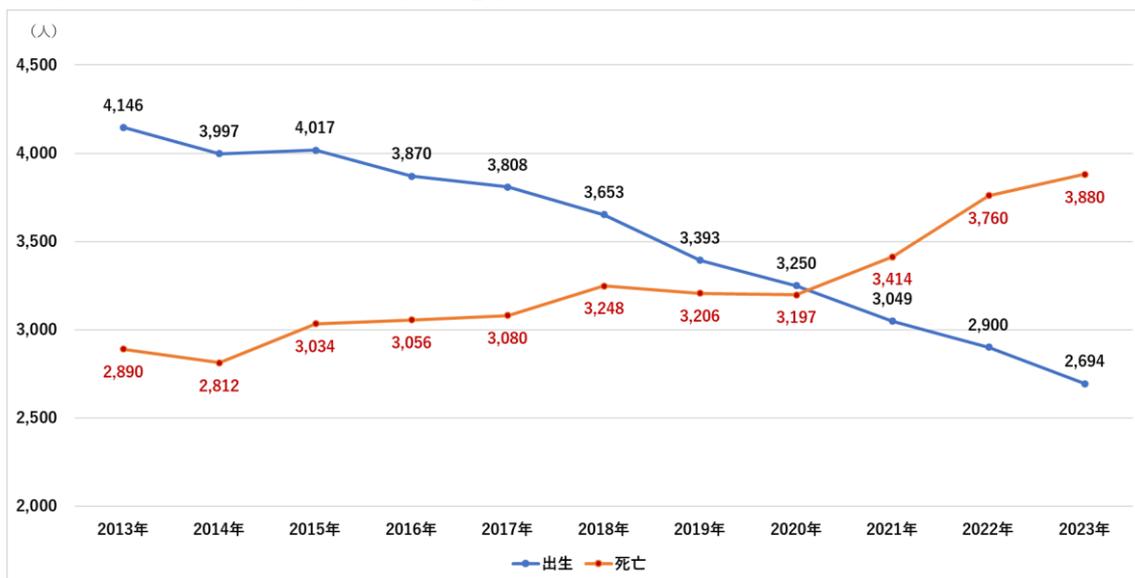


【出典】国勢調査及び

国立社会保障・人口問題研究所

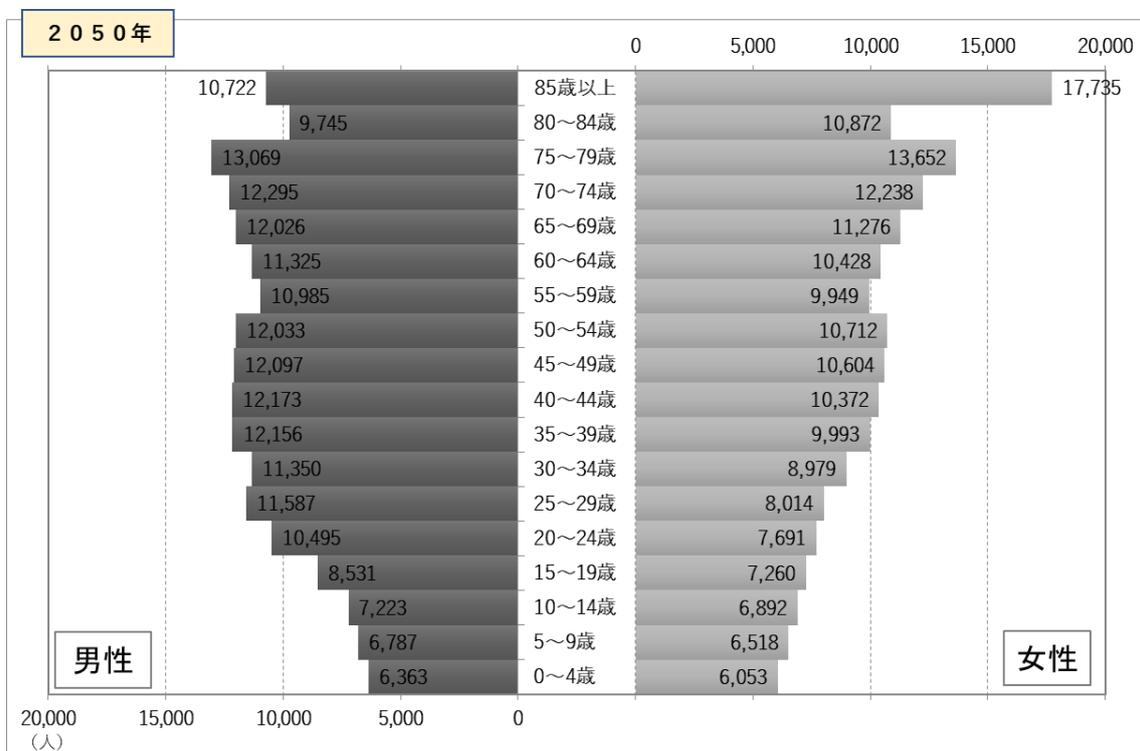
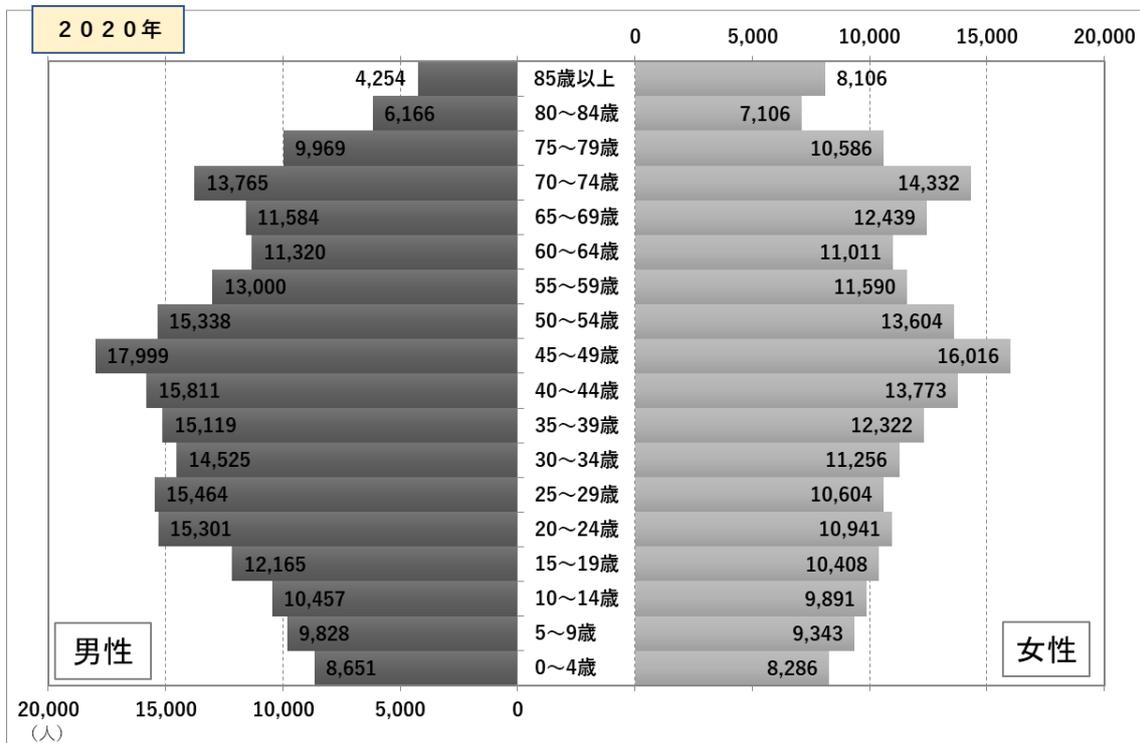
「日本の地域別将来人口推計(令和5(2023)年推計)」を基に作成

(図表第2)本市の出生数・死亡数の推移



【出典】豊田市住民基本台帳

(図表第3)本市の年齢別(5歳階級)人口構成



【出典】国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所

「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」を基に作成

## 産業構造

本市を含む西三河地域には、世界の自動車産業をけん引するトヨタ自動車株式会社やそのグループ企業・関連企業の生産拠点が集積している。2024年3月には下山地区においてトヨタ自動車株式会社の新研究開発施設が全面的に運用開始されるなど、自動車産業の世界的拠点として発展している。

自動車産業を中心としたものづくりに関わる企業への就業割合が高くなっており、その企業文化は市民の生活にも浸透している。

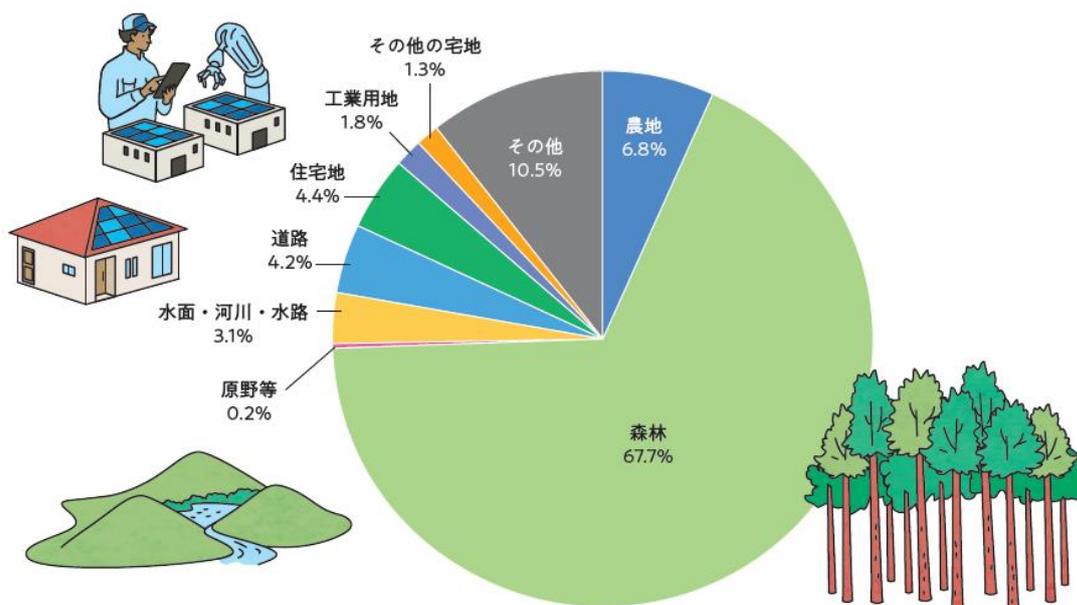
## 地域資源

本市は、自動車産業を中心とする世界有数のものづくりの拠点でありながら、愛知県内でも有数の農業生産額を誇っている。市域の約7割を占める豊かな森林や、北から南に縦貫する一級河川矢作川を始めとした豊富な水資源など、日本の縮図のような地域特性を持っている(図表第4)。

くわえて、名古屋市を中心とした大都市圏の一部として、大学教育や商業施設を始めとした高次の都市サービスを楽しみつつ、日常生活に必要な医療・福祉の機能を有し、自立性の高い生活圏を形成している。

自然災害の点から見ると、本市は、南海トラフ地震を始めとした大規模地震の影響を受けるほか、活断層の存在も指摘されている。また、気候変動による豪雨の増加や台風の強大化などによる河川の氾濫、山村部における土砂災害の危険性など、様々なリスクを有している。

(図表第4)本市の土地利用の現況



【出典】愛知県「土地に関する統計年報 2023年度版」

## ② 今後取り組む課題

中長期的な人口減少や超高齢化社会の進展など、人口に関する予測に加えて、人生 100 年時代といわれる中、こどもから高齢者まで全ての人が元気に活躍し続けられる社会や安心して暮らすことのできる地域社会をつくることが重要な課題となっている。

あわせて、本市は、国内外から人材が集まる産業構造やこれまで築いてきた高水準の都市基盤を生かしながら、将来を展望したまちづくりを進めることで、周辺自治体を含めた圏域の人口維持を図る役割を担っていく必要がある。

また、近年人々のつながり合いに対する意識が変化しており、家族や地域のつながりの機能が弱まっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、人間関係の希薄化が進み、孤独や孤立など心理的な困難を抱えた人が増えている。くわえて、こどもたちの価値観や抱える困難も多様化・複雑化しており、不登校や特別な支援を必要とする児童生徒が増加している。こどもたちの考え方に寄り添うことや、互いを認め合う包摂的な社会を実現していくことが求められている。

こうした状況の中で、改めて「つながり合い」を通じた、「気付き合い」、「認め合い」、「学び合い」が重要となっている。世代や属性を超えて、困難を抱える人もそうでない人も、誰もが将来に希望を持ち、自分らしく安心して暮らすことのできる地域社会をつくることが求められている。

## (2) 成果と課題

第2期SDGs未来都市計画の各取組の成果(進捗評価)と課題については、次のとおりである。進捗に関しては、目標値を達成している場合は「達成」、それ以外では、当初値のない指標は「―」、当初値から目標値に対して数字が近づいている指標は「↑」、離れている指標は「↓」、具体的な目標値のない指標は「―」とした。

### ① 第2期SDGs未来都市計画の進捗評価

#### ア 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	単位	当初値	2023年 実績	目標値	進捗
1	産業用地創出面積(累計)【9.2】	ha	—	0	2024年 20	—
2	新たな事業展開への取組件数(累計、市制度活用分)【9.2】	件	—	56	2024年 40	達成
3	スタートアップ・ベンチャーへの支援件数(4年累計)【8.3】	件	—	10	2024年 8	達成
4	市街化調整区域内地区計画の活用による都市計画決定時の予定宅地数(累計)【11.a】	戸	—	213	2024年 700	—
5	空き家・空き地情報バンクの成約数【11.a】	件	2019年 26	28	2024年 35	↑
6	地域主体の健康づくりに取り組む中学校区数(年度末時点、市支援分)【3.8】	地区	2019年 16	23	2024年 28	↑
7	健康づくり事業への参加者数(市実施・支援分)【3.8】	人	2019年 176,988	212,366	2024年 188,500	達成
8	シニアアカデミー「通年コース」「専門コース」「はじめの一步講座」受講者数【8.5】	人	2019年 294	267	2024年 328	↓
9	セカンドライフ&キャリア支援事業(エスプレッソ)への参加者数(累計)【8.5】	人	—	689	2024年 200	達成
10	医療・介護連携に係る多種連携研修の参加者数【8.5】	人	—	2,263	2024年 3,000	—
11	(介護人材支援)キャリアアップ支援研修の参加者数(4年累計)【8.5】	人	—	83	2024年 120	—
12	自立相談支援機関によるアウトリーチ件数【8.5】	件	2019年 1,922	2,651	2024年 2,130	達成
13	社会参加のマッチングを支援した地域包括センターの数【8.5】	か所	—	20	2024年 20	達成
14	豊田市つながる社会実証推進協議会による新規実証事業件数【17.17、11.a】	件/年度	2019年 10	16	2024年 10	達成
15	都市と山村の交流コーディネート件数(累計)【17.17、11.a】	件	—	159	2024年 200	—
16	学校の活動にボランティアとして参加した人数【17.17、11.a】	人	2019年 5,280	4,679	2030年 5,500	↓
17	再生可能エネルギーの総発電能力(市導入・関与分)【7.2.7.a】	kW	2019年 104,333	122,112	2024年 117,000	達成
18	スマートハウス延べ支援件数(年度末時点)【7.2.7.a】	件	2019年 689	1,803	2024年 965	達成
19	市内における次世代自動車普及率【7.2.7.a】	%	2019年 26.6	32.6	2024年 47	↑
20	(減量化・資源化の促進)市民一人当たりの可燃ごみに含まれる資源の量【12.4.12.8】	g/日	2019年 135	131	2024年 131	達成
21	(環境配慮行動の促進)とよたSDGsポイント新規加入者数【12.4.12.8】	人/年度	—	527	2024年 500	達成
22	(気候変動適応策の推進)セミナーなどの適応推進事業への延べ参加者数(累計)【13.3】	人	—	841	2024年 900	—
23	人工林の間伐実施面積(年間)【15.4】	ha/年度	2019年 821	866	2024年 1,200	↑

## イ 自治体 SDGs の推進に資する取組

No	取組名	指標名	単位	当初値		2023年実績	目標値		進捗
1	エネルギー	【再掲】再生可能エネルギーの総発電電力量(市導入・関与分)	kW	2019年	104,333	122,112	2024年	117,000	達成
2		【再掲】スマートハウス延べ支援件数(年度末時点)	件	2019年	689	1,803	2024年	965	達成
3		【再掲】市内における次世代自動車普及率	%	2019年	26.6	32.6	2024年	47	↑
4		【再掲】(減量化・資源化の促進)市民一人当たりの可燃ごみに含まれる資源の量	g/日	2019年	135	131	2024年	131	達成
5		【再掲】(環境配慮行動の促進)とよたSDGsポイント新規加入者数	人/年度		—	527	2024年	500	達成
6		SDGs関連プロモーション事業数	件/年度	2019年	5	10	2024年	3	達成
7	モビリティ	全体の交通事故死傷者数【出典:県警本部の公表数値】	人	2019年	1,637	1,108	2024年	前年比減	達成
8		【再掲】オープンイノベーション推進事業)新たな事業展開への取組件数	件		—	56	2024年	40	達成
9		イノベーション人材育成者数(累計)	人		—	30	2024年	60	—
10		先進技術を生かした移動に関する実証事業数(交通まちづくり)	事業/年度	2019年	5	5	2024年	4	達成
11		先進技術実証 新規の実証事業(豊田市つながる社会実証推進協議会)	件/年度	2019年	10	16	2024年	10	達成
12	ウェルネス	要支援・要介護認定者の認定率①65歳	%	2020年	1.51	1.67	2024年	↓	—
13		要支援・要介護認定者の認定率②70歳	%	2020年	3.62	3.75	2024年	↓	—
14		要支援・要介護認定者の認定率③75歳	%	2020年	7.73	6.34	2024年	↓	—
15		女性の就労等に向けた支援の取組への参加者数	人	2019年	282	354	2024年	500	↑
16		就労支援室と女性しごとテラスの合計就職決定件数(累計)	人	2020年	420	1,429	2024年	1,680	↑
17		都市と山村の交流コーディネート件数(累計)	件		—	159	2024年	200	—
18		山村地域におけるわくわく事業の新規申請団体数(累計)	件		—	72	2024年	60	達成
19		山村地域等における先進技術を活用した実証支援事業数(累計)	件		—	0	2024年	4	—

## ウ 上記進捗評価からの課題

特に進捗が思わしくない指標は、以下のとおりである。いずれも新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響で低迷が続いたが、脱コロナの情勢に合わせ、必要に応じて取組を拡充し、推進を図っていく。目標値の設定年度終了時(第8次豊田市総合計画の終了時)に、事業の見直しを行う。

- ・ア 指標 8: シニアアカデミー「通年コース」・「専門コース」・「はじめての一步講座」受講者数【8.5】
- ・ア 指標 16: 学校の活動にボランティアとして参加した人数【17.17、11.a】

## ② 本市の SDGs の達成状況

本市は、2018 年に「SDGs 未来都市」の選定を受けたことをきっかけに、愛知県における初の自発的自治体レビュー（VLR）<sup>4</sup>の実施、「持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム」<sup>5</sup>への参加など日本の SDGs の取組をけん引してきた。

これまで、第 8 次豊田市総合計画と、豊田市 SDGs 未来都市計画を連動させながら施策を推進してきたが、本市の持続的な成長と、市民が安心して暮らし、幸せを実感し続けるまちの実現のために、SDGs 達成は重要な視点であることから、第 9 次豊田市総合計画においても、引き続き、施策と SDGs との連動を図っていく。

本市における SDGs の達成状況については、国際連合地域開発センター（UNCRD）<sup>6</sup> や民間企業と共同開発した指標により、継続的に評価・モニタリングを行っている。モニタリング結果については、SDGs に取り組む全てのステークホルダーや市民社会に対して、分かりやすく可視化し、本市一丸となって SDGs を推進していく。（図表第 5-a、5-b、5-c）

---

<sup>4</sup> 自発的自治体レビュー（VLR）：地方自治体等が SDGs を巡る進捗状況や経験・知見などを自発的に報告するもの

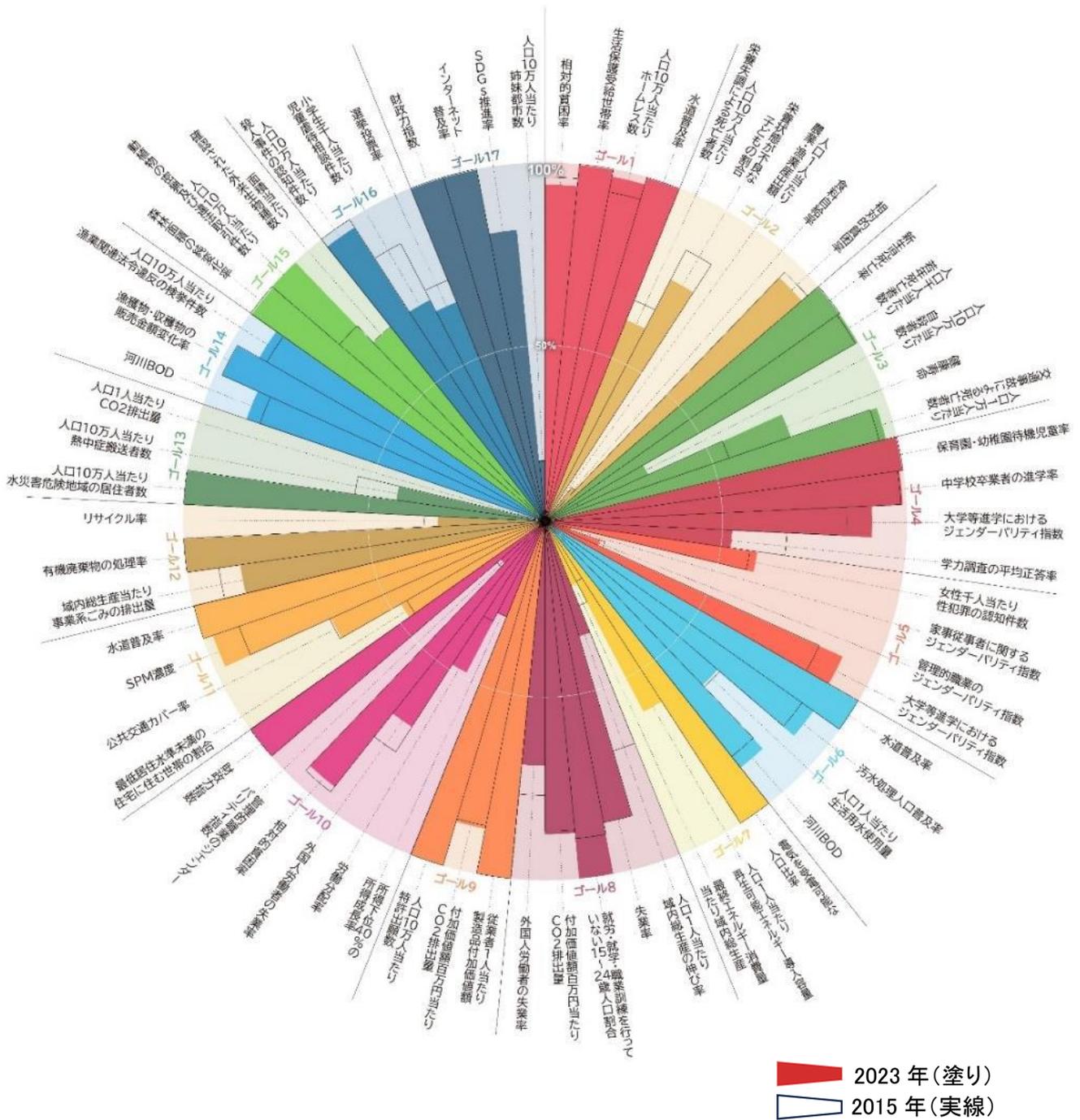
<sup>5</sup> 持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム：SDGs の進捗状況の報告や、経験・知見の共有などを目的に、毎年7月に国際連合本部にて開催される国際会議

<sup>6</sup> 国際連合地域開発センター（UNCRD）：名古屋市を拠点に SDGs の活動を支援する国際連合のプロジェクトオフィス

(図表第5-a)SDGs 達成度評価指標

指標番号	指標名	単位	方向	目標値	対応SDG		
1	相対的貧困率	%	↓	9.6	1	2	10
2	生活保護受給世帯率	%	↓	1.4	1		
3	人口10万人当たりホームレス数	人	↓	0.0	1		
4	人口10万人当たり栄養失調による死亡者数	人	↓	0.0	2		
5	栄養状態が不良な子どもの割合	%	↓	0.0	2		
6	人口1人当たり農業・漁業産出額	万円	↑	16.5	2		
7	食料自給率(カロリーベース)	%	↑	100.0	2		
8	出生千人当たり新生児死亡者数	人	↓	12.0	3		
9	人口千人当たり若年死亡者数	人	↓	1.2	3		
10	人口10万人当たり自殺者数	人	↓	2.6	3		
11	健康寿命	年	↑	84.0	3		
12	人口1万人当たり交通事故による死亡者数	人	↓	0.2	3		
13	保育園・幼稚園待機児童率	%	↓	0.0	4		
14	中学校卒業者の進学率	%	↑	100.0	4		
15	大学等進学におけるジェンダーパリティ指数	-	N	1.0	4	5	
16	学力調査の平均正答率	%	↑	70.1	4		
17	女性千人当たり性犯罪の認知件数	件	↓	0.0	5		
18	家事従事者に関するジェンダーパリティ指数	-	N	1.0	5		
19	管理的職業のジェンダーパリティ指数	-	N	1.0	5	10	
20	水道普及率	%	↑	100.0	6	1	11
21	汚水処理人口普及率	%	↑	100.0	6		
22	人口1人当たり生活用水使用量(取水量ベース)	m3	↓	53.2	6		
23	電気を受電可能な人口比率	%	↑	100.0	7		
24	人口1人当たり再生可能エネルギー導入容量	kW	↑	1.1	7		
25	最終エネルギー消費量当たり総生産	百万円/TJ	↑	97.4	7		
26	人口1人当たり総生産の伸び率	%	↑	5.4	8		
27	失業率	%	↓	0.0	8		
28	就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない15~24歳人口の割合	%	↓	2.6	8		
29	従業者1人当たり製造品付加価値額	百万円	↑	13.4	9		
30	付加価値額百万円当たりCO2排出量	tCO2	↓	1.8	9	8	
31	人口10万人当たり特許出願数	件	↑	2086.5	9		
32	所得下位40%の所得成長率(世帯所得300万円未満の世帯の割合の減少数)	%	↑	1.6	10		
33	労働分配率	%	↑	74.3	10		
34	外国人労働者の失業率	%	↓	0.0	10	8	
35	最低居住水準未満の住宅に住む人口の割合	%	↓	0.0	11		
36	公共交通カバー率	%	↑	100.0	11		
37	SPM濃度	µg/m3	↓	9.5	11		
38	総生産当たり事業系ごみの排出量	t/百万円	↓	4849.4	12		
39	有害廃棄物の処理率	%	↑	100.0	12		
40	リサイクル率	%	↑	47.8	12		
41	人口10万人当たり水災害危険地域の居住者数	人	↓	20418.7	13		
42	人口10万人当たり熱中症搬送者数	人	↓	8.7	13		
43	人口1人当たりCO2排出量	tCO2	↓	0.2	13		
44	河川BOD	mg/L	↓	0.5	14	6	
45	漁獲物・収獲物の販売金額変化率	-	↑	1.0	14		
46	人口10万人当たり漁業関連法令違反の検挙件数	件	↓	0.0	14		
47	森林面積の純変化率	%	↓	0.0	15		
48	人口10万人当たり動植物の密猟及び違法取引件数	件	↓	0.0	15		
49	面積あたり確認された外来生物種数	種	↓	9.9	15		
50	人口10万人当たり殺人事件の認知件数	件	↓	0.0	16		
51	小学生千人当たり児童虐待相談件数	件	↓	0.0	16		
52	選挙投票率	%	↑	90.4	16		
53	財政力指数	-	↑	1.0	17	10	
54	インターネット普及率	%	↑	100.0	17		
55	SDGs推進率	%	↑	100.0	17		
56	人口10万人当たり姉妹都市数	都市	↑	2.8	17		

(図表第5-b)本市市の SDGs 達成状況(2023 年)

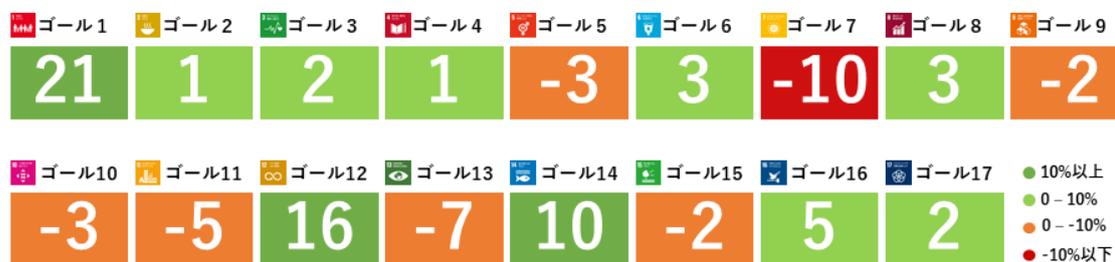


(図表第5-c)本市のSDGs達成状況(2023年)

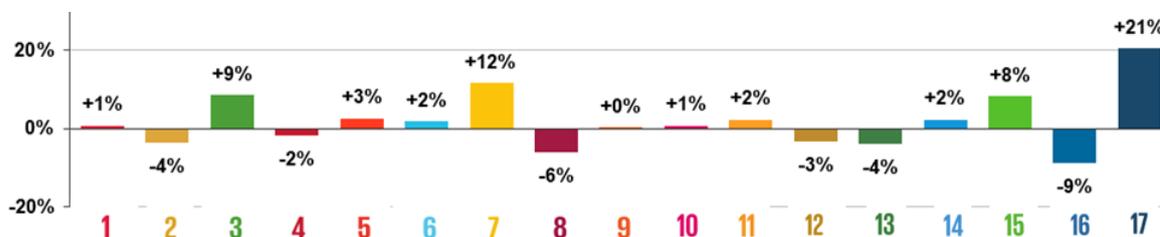
### ゴールごとの達成度



### 全国平均との差



### 2015年からのゴールごとの変化



### ゴールごとの達成度

本市の評価結果としては、ゴール1(貧困)、ゴール9(産業とイノベーション)が最も高く、本市の産業や雇用が良い状態であることを表している。生物多様性が影響するゴール14(海の豊かさ)、ゴール15(陸の資源)も、同じく90パーセントを超える高い達成度を示している。

一方で、ゴール5(ジェンダー平等)、ゴール13(気候変動対策)、ゴール2(飢餓・食料)は、達成度が低い。特にゴール5(ジェンダー平等)は全国的に達成度が低く、取組が不十分な状況である。その他、ゴール10(不平等)やゴール7(エネルギー)も低い傾向にあり、課題が残っている。

### 全国平均との差

全国平均との差を見ると、20 ポイント以上高い項目としてゴール1(貧困)が挙げられる。好調な産業により相対的貧困率や生活保護受給世帯の割合が小さく、ホームレス数も少ないことが大きな要因である。また、ゴール 12(生産・消費)も全国平均よりかなり高く、これは有害廃棄物の処理が適切に実施されていることに起因する。

全国平均より低い項目として、ゴール7(エネルギー)やゴール 13(気候変動対策)が挙げられる。ゴール7は、最終エネルギー消費量当たり域内総生産が影響しており、本市に限らず産業や人口が集中した都市部ほどエネルギーの消費効率は大きい傾向にある。ゴール13は、製造業の規模が大きいことから、1人当たりのCO2排出量が高いこと、また近年の猛暑が影響による熱中症搬送者数の増加傾向に起因する。

### 2015年からの変化

2015年からの変化をみると、ゴール 17(パートナーシップ)が最も改善している。全国的な傾向ではあるが、SDGs 認知度の高まりの表れといえる。ゴール7(エネルギー)の達成度の増加要因としては、再生可能エネルギーの導入が大きく進んだことにある。

一方で、新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、複数のゴールで後退傾向もみられている。

### (3) 2030 年のあるべき姿

第 9 次豊田市総合計画は、長期(2050 年)を展望して設定する普遍的なまちづくりと方向性を示す「ミライ構想」と、「ミライ構想」の実現に向けて、2030 年までに特に注力する取組の方向性を示す「ミライ実現戦略 2030」で構成されている。

「ミライ実現戦略 2030」では、本市が目指す「将来像」を実現するために、3つの「注力する視点」を掲げている。

#### 「ミライ構想」

豊田市が目指す将来像(第9次豊田市総合計画)  
つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた



#### 「ミライ実現戦略 2030」

- ・ 視点1 「こども起点」でまちづくりを考える
- ・ 視点2 誰もが「つながり合う」まちづくりを進める
- ・ 視点3 人を支える「まちの基盤」をつくる

以上を踏まえ、この5年間(2025 年4月から 2030 年3月まで)で特に注力する取組の方向性として、2つの取組方針と5つの取組目標を設定している。これらの方向性を SDGs と一体的に取り組むことが、本市における地域レベルでの SDGs 推進であると考えられる。

#### 【取組方針1 とともにこどものミライに夢と希望をつくる】

わたしたちは、本市の誇るべき多様な地域性や価値、多様で豊かな担い手を生かし、一人ひとりがつながり、楽しみながら、こどもたちが自らのミライに夢と希望を持つ社会をつくれます。

**取組目標① こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる**

**取組目標② 誰もがつながり合いの中で安心して自分らしく暮らすことができる**

#### 【取組方針2 とともにミライにつながるまちをつくる】

わたしたちは、将来を展望し、ミライを担うこどもたちにとって安全・安心で持続可能なまちの基盤をつくれます。

**取組目標③ 産業中枢都市として深化し続ける**

**取組目標④ 将来を展望した都市環境の形成を進める**

**取組目標⑤ 脱炭素社会の実現に挑戦する**

#### (4) 2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

モニタリング結果からは、本市の SDGs 達成状況だけでなく、地域特性や強み・弱みを確認することができる。本市の強みを生かし、課題の解決を図りながら、第3期 SDGs 未来都市計画の取組へと繋げていく。

##### 【SDGs 達成度の高いゴール】

SDGs 達成度 90 % 以上のゴール (2023 年)



これらを本市の強みと捉え、引き続きゴール達成を目指しながら、まちの魅力向上に生かしていく。

##### 【SDGs 達成度の低いゴール】

SDGs 達成度 60 % 以下のゴール (2023 年)



これらの課題が残るゴールについては、多様なステークホルダーとの連携や新たな技術の導入などにより、達成に向けた取組を加速させていく。

一方で、本市の 2030 年のあるべき姿の実現のためには、持続可能な経済、社会及び環境の三側面に加えて、市民一人ひとりの心身の豊かさも一層大切にする必要がある。この観点から、SDGs 推進だけでは充足しきれない「市民の心の豊かさ」に焦点を当てた、豊田市独自の横断的な目標(とよたローカルゴール)を新たに設定する。



L1

子どもたちが夢と希望を持ち、自らのミライを切り拓く力を育む

持続可能なまちづくりのためには、次世代を担うこどもの育成が必要不可欠である。子どもたちがミライに向かって夢と希望を持ち、心豊かに暮らせるよう、「子ども起点」、「子ども視点」で施策の在り方を考え、まちづくりを推進する。

##### 【ターゲット】

- L1.1 子どもがミライを生き抜く力と自己肯定感を高めている
- L1.2 まち全体がこどもの成長を支えている

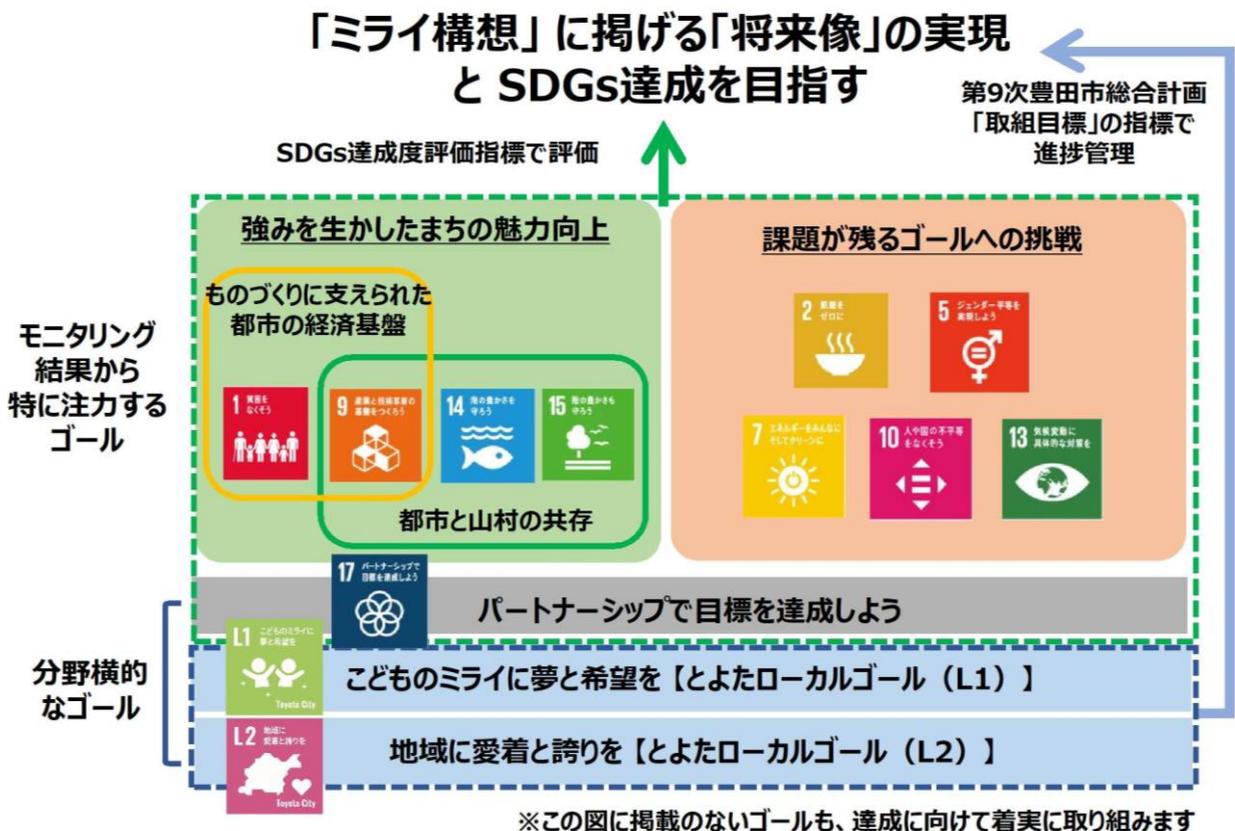
**L2** 地域に愛着と誇りを  
**L2** 誰もがつながり合い、様々な体験と感動を通じて、  
 地域への愛着と誇りを持っている

地域や多世代によるつながり合いの中で、本市ならではの様々な体験や感動は、わたしたちの暮らしを豊かなものにしてくれる。本市に関わる全ての人が、本市や自分が居住する地域に対して愛着や誇りを感じられる地域社会をつくる。

**【ターゲット】**  
 L2.1 人生 100 年時代に誰もが学び合いを通じていきいきと暮らしている  
 L2.2 市民のまちへの愛着・誇りが育まれている  
 L2.3 誰もが地域・多世代でともにつながり合いながら暮らしている

SDGs 達成を目指す年とミライ実現戦略 2030 の終了年がどちらも 2030 年であることから、それぞれの方向性を連動させ、ミライ実現戦略 2030 の実現に向けた取組を着実に推進することで、SDGs と「とよたローカルゴール」の達成につなげていく。これにより、本市が多くの人々から選ばれ、人口減少に歯止めをかけることで、地域の活性化につながると考える(図表第6)。

(図表第6)SDGs ととよたローカルゴールの推進の全体像



モニタリング結果から明らかとなった本市として特に注力するゴール及びローカルゴールを経済、社会、環境の三側面で整理すると次のとおりとなる。ただし、掲載のないゴールも、達成に向けて着実に取り組んでいくこととする。

SDGs の KPI については、前述の SDGs 達成状況を把握するためのツールの指標を採用した。そのため、各指標の達成基準値が SDGs 達成を基準とする全国一律の目標値であることから、本市としては、既に達成基準値に達している指標も存在するが、より良い状態を目指すために継続的に取り組んでいく。また、とよたローカルゴールの指標については、第9次豊田市総合計画「ミライ実現戦略 2030」の指標を採用した。「ミライ実現戦略 2030」の「目指す姿」指標では、具体的な数値目標を定めていないことから、第3期 SDGs 未来都市計画においても、2030年の具体的な数値目標を定めず、目指す方向性のみを示し、それに向かって常により良い状態を目指していく。

#### (経済)

ゴール、ターゲット番号		KPI(目指す方向)		
 9.2, 9.3, 9.5, 9.b, 9.c	指標: 従業者1人当たり製造品付加価値額(↑)			
	現在(2023年): 26.1 百万円/人		達成基準値(2030年) <sup>7</sup> : 13.4 百万円/人	
	9.1, 9.4, 9.5, 9.a, 9.b, 9.c	指標: 付加価値額百万円当たり CO2 排出量(↓)		
		現在(2023年): 4.4 tCO2/百万円		達成基準値(2030年): 1.8 tCO2/百万円
	9.5, 9.b, 9.c	指標: 人口 10 万人当たり特許出願数(↑)		
		現在(2023年): 14297.4 件/10 万人		達成基準値(2030年): 2086.5 件/10 万人
 10.2, 10.3	指標: 相対的貧困率(↓)			
	現在(2023年): 10.6%		達成基準値(2030年): 9.6%	
	指標: 管理的職業のジェンダーパリティ指数(↑)			
	現在(2023年): 0.2		達成基準値(2030年): 1.0	

<sup>7</sup> 達成基準値(2030年): SDGs 達成度評価指標において国際基準や SDGs のターゲットを基に算出した全国一律の目標値を指す。本計画では、当該目標値を達成基準値とし、本市が既に達成基準値に達している指標については、目指す方向に向けてより良い状態を目指していく。

	10.1	<b>指標: 所得下位 40%の所得成長率(↑)</b> <b>(世帯所得 300 万円未満の世帯の割合の減少数)</b>	
		現在(2023年): 0.5%	達成基準値(2030年): 1.6%
	10.3, 10.4	<b>指標: 労働分配率(↑)</b>	
		現在(2023年): 50.0%	達成基準値(2030年): 74.3%
	10.7	<b>指標: 外国人労働者の失業率(↓)</b>	
		現在(2023年): 6.0%	達成基準値(2030年): 0%
	10.5	<b>指標: 財政力指数(↑)</b>	
		現在(2023年): 1.3	達成基準値(2030年): 1.0

(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(目指す方向)		
	1.1, 1.2, 1.a, 1.b	<b>指標: 【再掲】相対的貧困率(↓)</b>	
		現在(2023年): 10.6%	達成基準値(2030年): 9.6%
	1.2, 1.3, 1.a	<b>指標: 生活保護受給世帯率(↓)</b>	
		現在(2023年): 1.0%	達成基準値(2030年): 1.4%
1.3, 1.4, 1.a, 1.b	<b>指標: 人口 10 万人当たりホームレス数(↓)</b>		
	現在(2023年): 0.5 人	達成基準値(2030年): 0 人	
1.4	<b>指標: 水道普及率(→)</b>		
	現在(2023年): 100%	達成基準値(2030年): 100%	
	2.1	<b>指標: 【再掲】相対的貧困率(↓)</b>	
		現在(2023年): 10.6%	達成基準値(2030年): 9.6%
2.1, 2.2	<b>指標: 人口 10 万人当たり栄養失調による死亡者数(↓)</b>		
	現在(2023年): 1.4 人	達成基準値(2030年): 0 人	

	2.2	指標: 栄養状態が不良な子どもの割合(↓)	現在(2023年): 0.2%	達成基準値(2030年): 0%
	2.3, 2.4, 2.5, 2.a, 2.b, 2.c	指標: 人口1人当たり農業・漁業産出額(↑)	現在(2023年): 2.0万円/人	達成基準値(2030年): 16.5万円/人
	2.4	指標: 食料自給率(カロリーベース)(↑)	現在(2023年): 12.0%	達成基準値(2030年): 100%
	5.1, 5.5, 5.a, 5.b, 5.c	指標: 大学等進学におけるジェンダーパリティ指数(→)	現在(2023年): 1.0	達成基準値(2030年): 1.0
	5.2, 5.3, 5.6, 5.c	指標: 女性千人当たり性犯罪の認知件数(↓)	現在(2023年): 0.1件	達成基準値(2030年): 0件
	5.1, 5.4, 5.a, 5.c	指標: 家事従事者に関するジェンダーパリティ指数(↑)	現在(2023年): 0.1	達成基準値(2030年): 1.0
	5.1, 5.5, 5.a, 5.c	指標: 【再掲】管理的職業のジェンダーパリティ指数(↑)	現在(2023年): 0.2	達成基準値(2030年): 1.0
	7.1, 7.b	電気を受電可能な人口比率(→)	現在(2023年): 100%	達成基準値(2030年): 100%
	7.2, 7.a	人口1人当たり再生可能エネルギー導入容量(↑)	現在(2023年): 0.7kW	達成基準値(2030年): 1.1kW
	7.2, 7.3, 7.a	最終エネルギー消費量当たり総生産(↑)	現在(2023年): 25.4百万円/TJ	達成基準値(2030年): 97.4百万円/TJ

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(目指す方向)	
 13.1, 13.3	指標: 人口 10 万人当たり水災害危険地域の居住者数(↓)	
	現在(2023年): 15,100.5 人	達成基準値(2030年): 20,418.7 人
	指標: 人口 10 万人当たり熱中症搬送者数(↓)	
13.1, 13.3	現在(2023年): 72.2 人	達成基準値(2030年): 8.7 人
	指標: 人口1人当たりCO2 排出量(↓)	
13.2, 13.3	現在(2023年): 27.5tCO2/人	達成基準値(2030年): 0.2tCO2/人
	指標: 河川 BOD(↓)	
 14.1, 14.3	現在(2023年): 1.3mg/L	達成基準値(2030年): 0.5mg/L
	指標: 漁獲物・収獲物の販売金額変化率(→)	
14.2, 14.4, 14.5, 14.7, 14.b, 14.c	現在(2023年): 1.0	達成基準値(2030年): 1.0
	指標: 人口 10 万人当たり漁業関連法令違反の検挙件数(↓)	
14.5, 14.6, 14.c	現在(2023年): 1.0 件	達成基準値(2030年): 0 件
	指標: 森林面積の純変化率(↓)	
 15.1, 15.2, 15.3, 15.4, 15.a, 15.b	現在(2023年): 1.0%	達成基準値(2030年): 0%
	指標: 人口 10 万人当たり動植物の密猟及び違法取引件数(→)	
15.6, 15.7, 15.9, 15.c	現在(2023年): 0 件	達成基準値(2030年): 0 件
	指標: 面積あたり確認された外来生物種数(↓)	
15.4, 15.5,	現在(2023年): 22.0 種	達成基準値(2030年): 9.9 種

(分野横断的)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(目指す方向)		
 17.1	<b>指標:財政力指数(↑)</b>		
	現在(2023年): 1.3	達成基準値(2030年): 1.0	
	17.8	<b>指標:インターネット普及率(→)</b>	
		現在(2023年): 100%	達成基準値(2030年): 100%
	17.14, 17.16, 17.17	<b>指標:SDGs 推進率(↑)</b>	
現在(2023年): 81.8%		達成基準値(2030年): 100%	
17.16, 17.17	<b>指標:人口10万人当たり姉妹都市数(↑)</b>		
	現在(2023年): 0.5 都市	達成基準値(2030年): 2.8 都市	
 L1.1	<b>指標:自分には良いところがあると思う児童生徒の割合(↑)</b>		
	現在(2024年度): 85.7%	2030年: 向上を目指す	
	<b>指標:学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合(↑)</b>		
	現在(2024年度): 85.4%	2030年: 向上を目指す	
	<b>指標:特色ある教育活動を行っている学校の割合(↑)</b>		
	現在(2024年度): 84.9%	2030年: 向上を目指す	
	<b>指標:合計特殊出生率(↑)</b>		
	現在(2023年度): 1.33	2030年: 向上を目指す	
	<b>指標:子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人や場所がある市民の割合(↑)</b>		
	現在(2023年度): 90.8%	2030年: 向上を目指す	
<b>指標:「出産、子育てがしやすいまち」と思う市民の割合(↑)</b>			
現在: —(2025年度新規調査)	2030年: 向上を目指す		

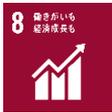
 L1 こどもの未来に 夢と希望を Toyota City	L1.2	<b>指標: 将来、結婚したいと思う市民の割合(↑)</b>	
		現在(2023年度): 70.3%	2030年: 向上を目指す
 L2 地域に 愛着と誇りを Toyota City	L2.1	<b>指標: 日頃の生活の中で生きがいを感じている市民の割合(↑)</b>	
		現在(2023年度): 72.7%	2030年: 向上を目指す
		<b>指標: 1年以内に新たな活動や学びの機会を持った市民の割合(↑)</b>	
		現在: —(2025年度新規調査)	2030年: 向上を目指す
		<b>指標: ボランティア活動やNPO活動に参加している市民の割合(↑)</b>	
		現在(2023年度): 18.9%	2030年: 向上を目指す
	L2.2	<b>指標: まちへの愛着を持っている市民の割合(↑)</b>	
		現在(2023年度): 75.9%	2030年: 向上を目指す
		<b>指標: 今住んでいるところに長く住みたいと思う市民の割合(↑)</b>	
		現在(2023年度): 69.5%	2030年: 向上を目指す
<b>指標: 豊田市の歴史・文化に愛着・誇りを持っている市民の割合(↑)</b>			
現在(2023年度): 47.8%		2030年: 向上を目指す	
<b>指標: 住んでいる地域を「大好き」「好き」と思う児童生徒の割合(↑)</b>			
現在(2024年度): 88.4%		2030年: 向上を目指す	
L2.3	<b>指標: 地域の活動に参加している市民の割合(↑)</b>		
	現在(2023年度): 54.4%	2030年: 向上を目指す	
	<b>指標: 自分にはつながりがあると感じている市民の割合(↑)</b>		
	現在: —(2025年度新規調査)	2030年: 向上を目指す	

## 2 自治体SDGsの推進に資する取組

### (1)自治体SDGsの推進に資する取組

#### ① 強みを生かしたまちの魅力向上

#### (ア) ものづくりに支えられた都市の経済基盤

ゴール、 ターゲット番号	KPI(目指す方向) ※地方自治体 SDGs 達成度評価指標から	
 1.2, 1.3, 1.a	指標: 相対的貧困率(↓)	
	現在(2023年): 10.6%	達成基準値(2030年): 9.6%
 8.1, 8.2, 8.3, 8.9, 8.10	指標: 人口1人当たり市内総生産の伸び率(↑)	
	現在(2023年): -6.6%	達成基準値(2030年): 5.4%
8.3, 8.5, 8.9	指標: 失業率(↓)	
	現在(2023年): 2.8%	達成基準値(2030年): 0%
8.6, 8.7, 8.9	指標: 就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない15~24歳人口の割合(↓)	
	現在(2023年): 2.3%	達成基準値(2030年): 2.6%
10.7	指標: 外国人労働者の失業率(↓)	
	現在(2023年): 6.0%	達成基準値(2030年): 0.0%
 9.2, 9.3, 9.5, 9.b, 9.c	指標: 従業者1人当たり製造品付加価値額(↑)	
	現在(2023年): 26.1%	達成基準値(2030年): 13.4%
9.1,9.4,9.5, 9.a, 9.b, 9.c	指標: 付加価値額百万円当たりCO2排出量(↓)	
	現在(2023年): 4.4tCO2	達成基準値(2030年): 1.8tCO2
9.5, 9.b, 9.c	指標: 人口10万人当たり特許出願数(↑)	
	現在(2023年): 14297.4件	達成基準値(2030年): 2086.5件

《第9次豊田市総合計画の主な関連施策》

- ・結婚・出産・子育て支援の充実
- ・ミライを支える産業の創出と育成
- ・積極的な起業・創業の支援
- ・産業用地の創出
- ・多様な人材の活躍と柔軟な働き方を実現する人材戦略への支援

《特徴的な取組》

・ものづくり創造拠点 SENTAN における「新たなプレイヤーの活躍促進」

新たなプレイヤーと市内企業の連携・協業

スタートアップと市内事業者とのオープンイノベーションを促進するため、STATION Ai 等との連携を深めるとともに、スタートアップに必要な支援体制を構築する。

(具体的な取組例) 新規事業創出支援事業「SPARK」、とよたイノベーションセンター事業  
ものづくり創造補助金



イノベーションが生まれ続けるエコシステムの構築

スタートアップ等の新たなプレイヤーを育成・支援する事業を実施するほか、金融機関を始めとする支援機関との出会いの場の創出等、新たなプレイヤーが生まれ、活躍することのできるエコシステムを構築する。

(具体的な取組例) アクセラレータープログラム、(仮称)SENTAN エコシステム構築事業

(イ) 都市と山村の共存

ゴール、ターゲット番号		KPI(目指す方向) ※地方自治体 SDGs 達成度評価指標から	
 6.3, 6.6, 6.b, 14.1, 14.3		指標: 河川 BOD(↓)	
		現在(2023年): 1.3mg/L	達成基準値(2030年): 0.5mg/L
 9.2, 9.3, 9.5, 9.b, 9.c		指標: 従業員 1 人当たり製造品付加価値額(↑)	
		現在(2023年): 26.1%	達成基準値(2030年): 13.4%

 <b>9.1, 9.4, 9.5, 9.a, 9.b, 9.c</b>	<b>指標: 付加価値額百万円当たり CO2 排出量(↓)</b>	
	現在(2023年): 4.4tCO <sub>2</sub>	達成基準値(2030年): 1.8tCO <sub>2</sub>
<b>9.5, 9.b, 9.c</b>	<b>指標: 人口10万人当たり特許出願数(↑)</b>	
	現在(2023年): 14,297.4件	達成基準値(2030年): 20,86.5件
 <b>11.2, 11.a</b>	<b>指標: 公共交通カバー率(↑)</b>	
	現在(2023年): 64.9%	達成基準値(2030年): 100%
<b>11.6</b>	<b>指標: SPM濃度(↓)</b>	
	現在(2023年): 12.0 μg/m <sup>3</sup>	達成基準値(2030年): 9.5 μg/m <sup>3</sup>
 <b>15.1, 15.2, 15.3, 15.4, 15.a, 15.b, 15.c</b>	<b>指標: 森林面積の純変化率(↓)</b>	
	現在(2023年): 1.0%	達成基準値(2030年): 0%

#### 《第9次豊田市総合計画の主な関連施策》

- ・都市部の利便性の高い暮らし環境の充実
- ・山村部の持続可能な暮らしの仕組みづくり
- ・都市間・拠点間連携を支える交通ネットワークの強化
- ・暮らしを守る自然環境の適正な保全

#### 《特徴的な取組》

##### ・里モビ LIFE プロジェクト

地域住民自らが超小型モビリティ「コムス」を中山間地域に適した仕様に改造し、日常の移動用として活用し、「移動にストレスをかけない暮らし方」を見える化するのと同時に、「人生の最後まで心身を自在に使い判断し行動できる」やさしい暮らしづくりを目指す。



・まち＋モビ

誰もが楽しく・快適に移動できる社会を実現するため、歩行領域 BEV「C+walk」で中心市街地を楽しく回遊できる事業。



・都市と山村の交流事業

都市と山村の人・地域・企業等をつなぐプラットフォームである「おいでん・さんそんセンター」等による地域と企業等のマッチング。都市部の企業、団体等と山村地域のそれぞれの強みを生かし、交流を契機とした相互の地域課題の解決へとつなげていく。

② 課題が残るゴールへの挑戦

(ア) 多様性(ダイバーシティ)と包摂性(インクルージョン)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(目指す方向) ※地方自治体 SDGs 達成度評価指標から	
 <b>3.4</b>	<b>指標:人口 10 万人当たり自殺者数(↓)</b>	
	現在(2023 年): 11.9 人	達成基準値(2030 年): 2.6 人
<b>3.1, 3.2, 3.3, 3.4, 3.5, 3.6, 3.8, 3.9, 3.a, 3.b, 3.c, 3.d</b>	<b>指標:健康寿命(↑)</b>	
	現在(2023 年): 82.4 年	達成基準値(2030 年): 84 年
<b>3.6</b>	<b>指標:人口1万人当たり交通事故による死亡者数(↓)</b>	
	現在(2023 年): 0.3 人	達成基準値(2030 年): 0.2 人
 <b>4.1, 4.2, 4a</b>	<b>指標:保育園・幼稚園待機児童率(→)</b>	
	現在(2023 年): 0.0%	達成基準値(2030 年): 0.0%

 <b>4</b> 質の高い教育を みんなに	4.3, 4.4, 4.6, 4.7, 4.b	指標: 中学校卒業者の進学率(↑)	現在(2023年): 99.0%	達成基準値(2030年): 100.0%
	4.6, 4.7	指標: 学力調査の平均正答率(↑)	現在(2023年): 58.0%	達成基準値(2030年): 70.1%
 <b>5</b> ジェンダー平等を 実現しよう	5.4, 5.a, 5.c	指標: 家事従事者に関するジェンダーパリティ指数(↑)	現在(2023年): 0.1	達成基準値(2030年): 1.0
	5.1, 5.5, 5.a, 5.c	指標: 管理的職業のジェンダーパリティ指数(↑)	現在(2023年): 0.2	達成基準値(2030年): 1.0
 <b>10</b> 人や国の不平等を なくそう	10.7	指標: 外国人労働者の失業率(↓)	現在(2023年): 6.0%	達成基準値(2030年): 0%
	10.1	指標: 所得下位40%の所得成長率(↑) (世帯所得300万円未満の世帯の割合の減少数)	現在(2023年): 0.5%	達成基準値(2030年): 1.6%
 <b>16</b> 平和と公正を すべての人に	16.2, 16.3	指標: 小学生千人当たり児童虐待相談件数(↓)	現在(2023年): 29.0件	達成基準値(2030年): 0.0件
	16.5, 16.6, 16.7, 16.8, 16.9, 16.10, 16.a, 16.b	指標: 選挙投票率(↑)	現在(2023年): 59.7%	達成基準値(2030年): 90.4%
 <b>17</b> パートナシップで 目標を達成しよう	17.1	指標: 財政力指数(↑)	現在(2023年): 1.3	達成基準値(2030年): 1.0

《第9次豊田市総合計画の主な関連施策》

- ・大人の学び・活躍を支援する機会の充実
- ・テーマやターゲットに応じた戦略的な情報の発信
- ・配慮が必要なこどもへの支援
- ・多様でゆるやかな「つながり合い」の創出の促進

《特徴的な取組》

・ずっと元気！プロジェクト

新たな官民連携の仕組み「ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)」を活用した介護予防の取組。「社会参加」や「コミュニケーション」をキーワードに、様々な介護予防プログラムを市内の高齢者に向けて展開している。



・豊田市女性しごとテラス(カプチャーノ)

結婚・出産・育児・介護から再就職・転職を目指したい、働き続けたい、キャリアアップしたい女性の「はたらく」をワンストップで応援する総合窓口

・とよた日本語学習支援システム

外国人住民が地域の日本人と交流を図りながら、日常生活を営むうえで最低限必要な日本語能力を習得するための多文化共生に寄与する学習支援システム

(イ) 脱炭素社会の実現

ゴール、 ターゲット番号	KPI(目指す方向) ※地方自治体 SDGs 達成度評価指標から	
 <b>7.2, 7.a</b>	<b>指標: 人口1人当たり再生可能エネルギー導入容量(↑)</b>	
	現在(2023年): 0.7kW	達成基準値(2030年): 1.1kW
<b>7.2, 7.3, 7.a</b>	<b>指標: 最終エネルギー消費量当たり域内総生産(↑)</b>	
	現在(2023年): 25.4 百万円/TJ	達成基準値(2030年): 97.4 百万円/TJ
 <b>13.2, 13.3</b>	<b>指標: 人口1人当たりCO2排出量(↓)</b>	
	現在(2023年): 27.5tCO2/人	達成基準値(2030年): 0.2tCO2/人

 <b>13.1, 13.3</b>	<b>指標: 人口 10 万人当たり水災害危険地域の居住者数(↓)</b>	
	現在(2023年): 15,100.5 人	達成基準値(2030年): 20,418.7 人

《第9次豊田市総合計画の主な関連施策》

- ・脱炭素社会の実現に向けた市民の行動の促進
- ・脱炭素社会の実現に向けた事業者の取組の促進
- ・脱炭素社会の実現を先導する公共の取組の推進
- ・水素社会の実現に向けた取組の推進

《特徴的な取組》

・豊田市水素社会構築戦略

2050年のカーボンニュートラルの実現には、これまでの脱炭素施策に加え、新たなエネルギーの活用が不可欠である。そこで、燃料電池を始めとした水素関連産業の振興にも貢献できる水素の活用に注目し、「つくる」、「はこぶ」、「つかう」の3つの視点から、官民連携による水素活用の取組の拡充を目指す。

・とよた・ゼロカーボンアクション

市民や市内事業者等の脱炭素社会に貢献する行動変容を促すための市民運動。市民等が日々の行動を見直し、節電や3R(リデュース、リユース、リサイクル)などの環境配慮行動を改めて実践していくことで、CO2の削減につなげる。



(ウ) 様々な変化に適応した暮らし

ゴール、 ターゲット番号	KPI(目指す方向) ※地方自治体 SDGs 達成度評価指標から	
 <b>2.3, 2.4, 2.5, 2.a, 2.b, 2.c</b>	<b>指標: 人口 1 人当たり農業・漁業産出額(↑)</b>	
	現在(2023年): 2.0 万円/人	達成基準値(2030年): 16.5 万円/人
 <b>13.1, 13.3</b>	<b>指標: 人口 10 万人当たり水災害危険地域の居住者数(↓)</b>	
	現在(2023年): 15,100.5 人	達成基準値(2030年): 20,418.7 人

	13.2, 13.3	指標: 人口1人当たり CO2 排出量(↓)	
		現在(2023年): 27.5tCO <sub>2</sub> /人	達成基準値(2030年): 0.2tCO <sub>2</sub> /人
	17.1	指標: 財政力指数(↑)	
		現在(2023年): 1.3	達成基準値(2030年): 1.0
	17.8	指標: インターネット普及率(→)	
		現在(2023年): 100%	達成基準値(2030年): 100%

#### 《第9次豊田市総合計画の主な関連施策》

- ・市内事業者の持続可能性の向上に向けた取組の支援
- ・社会環境の変化に適応する暮らし機能の最適化
- ・地域力発揮による防災力の強化
- ・防災・減災を支える基盤づくり

#### 《特徴的な取組》

##### ・SAKURA プロジェクト

外部給電機能を持つ次世代自動車を「走る発電機」として位置付け、災害時の非常用電源としての活用をはじめ、車の可能性を広げる取組を行うことにより、環境面だけでなく多角的な視点で次世代自動車の魅力を発信する活動を行う。次世代自動車の普及に取り組むパートナー制度を設け、下記の3つの視点でこのプロジェクトに賛同する企業、団体等と事業を連携し、取組の波及効果を高め、この取組を豊田市から全世界へと広げていくことを目的とする。

- 1 ふやす: クルマの外部給電機能の普及促進
- 2 つなぐ: 外部給電機能を有するクルマの車種拡充  
及び災害時の最適配置
- 3 つかえる: 外部給電機能の体験・使用方法を習得できる  
場の提供



##### ・移動型バリアフリートイレ「モバイルトイレ」導入

普通免許でけん引でき、車いす利用者や介護者などの使用性を重視した移動型バリアフリートイレを導入し、災害時の避難者の健康と衛生環境の確保を図る。

### ③ 分野横断的な視点

#### (ア) SDGs 達成に向けた市民の行動変容を促す取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI(目指す方向) ※地方自治体 SDGs 達成度評価指標から	
 17.1	指標: 財政力指数(↑)	
	現在(2023年): 1.3	達成基準値(2030年): 1.0

#### 《特徴的な取組》

##### ・とよた SDGs マスター

SDGs の理念や意義、豊田市の魅力や課題等を伝える SDGs と豊田市がつながるカードゲーム。市民と共働で制作した本カードには、SDGs のゴールと本市のオープンデータを紐づけたクイズが掲載されており、地域課題を自分ごととして考えるきっかけを提供する。



##### ・子ども向け SDGs 講座「とよた SDGs ミライ大学」

市内の企業や市民団体が講師を務め、子ども向けに SDGs に関する講座を開催する事業。SDGs の普及啓発だけでなく、市民の行動変容のきっかけを創出します。講座づくり勉強会や講師の交流会も開催することで担い手育成にも取り組む。



##### ・とよた SDGs ポイント

ポイントを「貯める・使う」ことで、市民等の SDGs の認知度向上、行動促進を図る。豊田市内に在住・在学・在勤の人が登録でき、地元の店舗等がポイント発行の参加店舗(以下、ポイント加盟店)として協力する。登録者が SDGs につながる行動を実施し、発行されたポイントは、1ポイント=1円として、ポイント加盟店等で利用できる制度である。

(具体的な行動例)

- ・飲食店で食事を残さず食べる
- ・容器を持参する
- ・就労支援セミナーを受講する



(イ) こども起点のまちづくり(とよたローカルゴール)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(目指す方向) ※第9次豊田市総合計画「ミライ実現戦略 2030」から	
 L1.1	指標: 自分には良いところがあると思う児童生徒の割合(↑)	
	現在(2024年度): 85.7%	2030年: 向上を目指す
	指標: 学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合(↑)	
	現在(2024年度): 85.4%	2030年: 向上を目指す
	指標: 特色ある教育活動を行っている学校の割合(↑)	
	現在(2024年度): 84.9%	2030年: 向上を目指す
L1.2	指標: 合計特殊出生率(↑)	
	現在(2023年度): 1.33	2030年: 向上を目指す
	指標: 子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人や場所がある市民の割合(↑)	
	現在(2023年度): 90.8%	2030年: 向上を目指す
	指標: 「出産、子育てがしやすいまち」と思う市民の割合(↑)	
	現在: —(2025年度新規調査)	2030年: 向上を目指す
L1.2	指標: 将来、結婚したいと思う市民の割合(↑)	
	現在(2023年度): 70.3%	2030年: 向上を目指す

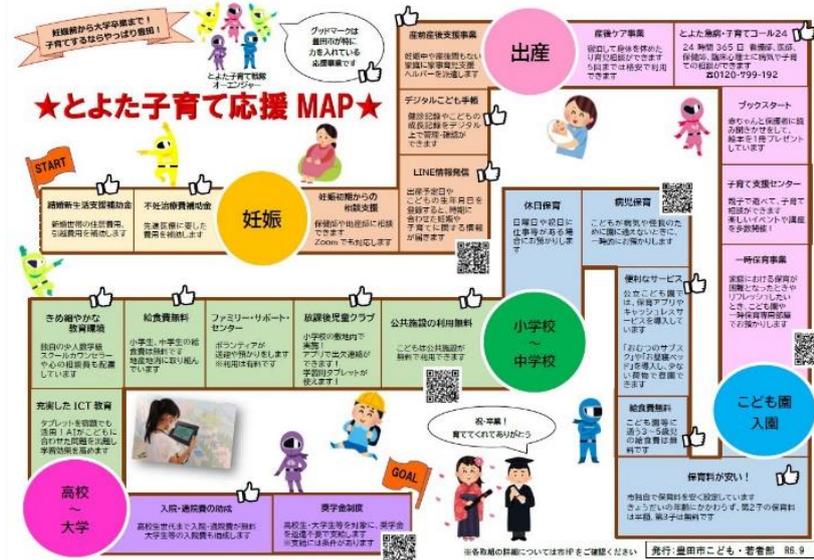
《特徴的な取組》

・丘 KOBA プロジェクト

自動車関連企業のプロとこどもが未来のモビリティを創造し、ものづくりに関連する知識・技術・技能を学びながら、夢をカタチにしていく事業。チームをひとつの会社に見立てて、社長が考える「未来のモビリティ」を自動車関連企業のプロとこどもたちが一緒に製作する。

・とよた子育て応援MAP

妊娠前から大学卒業までの子育て支援事業のうち豊田市が特に力を入れているものをすごろく風にまとめたリーフレット。市民が公共施設等で気軽に手に取ることができる。



・とよたこどものたいけん応援

豊田市に住んでいる子どもだからできる「スポーツや文化の体験機会」や「市内の体験施設」をわかりやすく紹介する。

(ウ) まちへの愛着と誇り

ゴール、ターゲット番号	KPI(目指す方向) ※第9次豊田市総合計画「ミライ実現戦略 2030」から		
<b>L2</b> 地域に愛着と誇りを 	<b>L2.1</b> <b>指標: 日頃の生活の中で生きがいを感じている市民の割合(↑)</b>		
	<table border="1"> <tr> <td>現在(2023年度): 72.7%</td> <td>2030年: 向上を目指す</td> </tr> </table>	現在(2023年度): 72.7%	2030年: 向上を目指す
	現在(2023年度): 72.7%	2030年: 向上を目指す	
	<b>指標: 1年以内に新たな活動や学びの機会を持った市民の割合(↑)</b>		
<table border="1"> <tr> <td>現在: —(2025年度新規調査)</td> <td>2030年: 向上を目指す</td> </tr> </table>	現在: —(2025年度新規調査)	2030年: 向上を目指す	
現在: —(2025年度新規調査)	2030年: 向上を目指す		
	<b>指標: ボランティア活動やNPO活動に参加している市民の割合(↑)</b>		
	<table border="1"> <tr> <td>現在(2023年度): 18.9%</td> <td>2030年: 向上を目指す</td> </tr> </table>	現在(2023年度): 18.9%	2030年: 向上を目指す
現在(2023年度): 18.9%	2030年: 向上を目指す		

	L2.2	指標: まちへの愛着を持っている市民の割合(↑)	
		現在(2023年度): 75.9%	2030年: 向上を目指す
		指標: 今住んでいるところに長く住みたいと思う市民の割合(↑)	
		現在(2023年度): 69.5%	2030年: 向上を目指す
		指標: 豊田市の歴史・文化に愛着・誇りを持っている市民の割合(↑)	
		現在(2023年度): 47.8%	2030年: 向上を目指す
		指標: 住んでいる地域を「大好き」「好き」と思う児童生徒の割合(↑)	
		現在(2024年度): 88.4%	2030年: 向上を目指す
	L2.3	指標: 地域の活動に参加している市民の割合(↑)	
		現在(2023年度): 54.4%	2030年: 向上を目指す
L2.3	指標: 自分にはつながりがあると感じている市民の割合(↑)		
	現在: —(2025年度新規調査)	2030年: 向上を目指す	

#### 《特徴的な取組》

##### ・ラリーをいかしたまちづくり

2022年に12年ぶりに日本で開催されたFIA世界ラリー選手権(WRC)を、2023年から、本市、トヨタ・モータースポーツ・クラブ、特定非営利法人 M.O.S.C.O.の三者による共同で主催する。WRCを通じて、「産業の振興」、「山村地域の振興」、「交通安全の推進」を図る。

## (2)情報発信

### (域内向け)

#### ・豊田市博物館「えんにち空間」内展示コーナー「明日のとよた」

本市やとよたSDGsパートナーなどの連携先民間事業者の取組を、「ミライをつくるためのコト・モノ」として発信することで、過去から現在に至る人々の生活史を発信する常設展示を補完し、来館者にミライを考えるきっかけを提供する。

### (域外向け(国内))

#### ・オンラインSDGsプラットフォーム「Platform Clover」の活用

SDGs達成に貢献し得る活動の発信や検索、ニーズ・シーズのマッチングなどが可能なオンラインSDGsプラットフォーム「Platform Clover」に本市の特設ページを開設し、市内のさまざまなステークホルダーによるSDGsのプロジェクトや活動を発信する。

### (海外向け)

#### ・SDGsに関する国際会議の誘致及び国際会議への参加

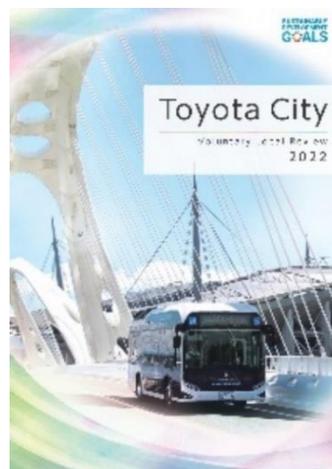
日本の優れた技術や好事例を世界に発信するため、SDGsに関するハイレベルな国際会議を積極的に本市にて開催する。また、国連本部等で開催される国際会議に積極的に参加し、本市のSDGsの取組を世界へ発信する。

例) 2025 国際首長フォーラムの開催

持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラムへの参加

#### ・自発的自治体レビュー(VLR)の実施

SDGs達成のための本市の取組状況や達成状況などについて、国内外へ向けて自発的に公表していく。二度目となるVLRの実施について検討する。



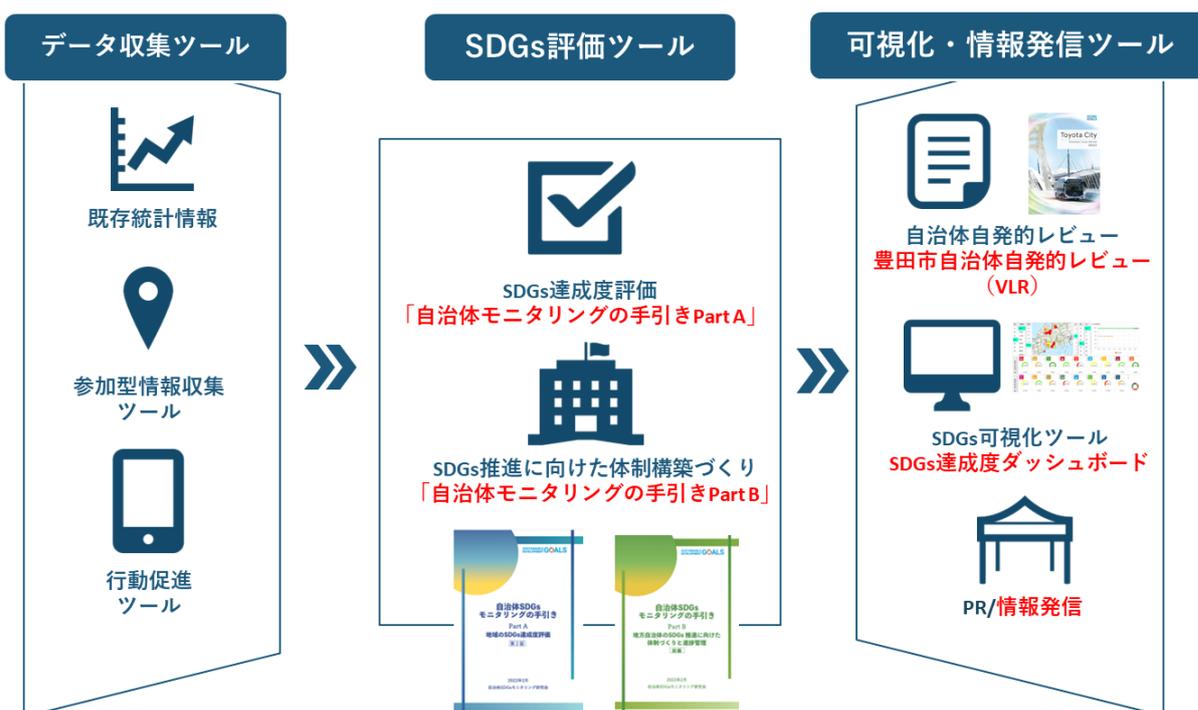
### (3)普及展開性

#### (他の地域への普及展開性)

##### ・自治体 SDGs モニタリング研究会への参画

国際連合地域開発センター(UNCRD)が主導し、官民連携で活動する「自治体SDGs モニタリング研究会」に参画し、地方自治体の SDGs の達成度を評価・モニタリングするツールの活用や可視化の方法、自発的自治体レビュー(VLR)の実施等について研究する。17のゴールと169のターゲットに対応し、オープンデータで入手可能な56指標を独自に設定し、2015年以降の全国47都道府県と1741市区町村の全ての自治体におけるSDGsのゴールごとの達成度を可視化する。本研究会の活動や成果については、海外を含む他の地域へと積極的に普及展開を図っていく。(図表第7)

(図表第7)地方自治体 SDGs モニタリングパッケージ



自治体 SDGs モニタリング研究会構成メンバー:

国際連合地域開発センター(UNCRD)、名古屋市、豊田市、蒲郡市、浜松市、TOPPAN 株式会社、ESRI ジャパン株式会社、大日本ダイアコンサルタント株式会社

### 3 推進体制

#### (1) 各種計画への反映

##### ① 第9次豊田市総合計画

総合計画は、市民と行政がともに取り組む、これからの豊田市のまちづくりの方向性を明らかにする最も基本となる計画である。今後、ますます変化が激しくなる予測困難な社会の中での推進となるため、本市では第9次豊田市総合計画を「まちづくりの羅針盤」と位置付け、「ミライ構想」の実現に向けた取組目標を掲げ、その施策は常に見直していく。

第9次豊田市総合計画は、「ミライ構想」と「ミライ実現戦略 2030」で構成されている。「ミライ構想」は、長期(2050年)を展望して設定する普遍的なまちづくりの方向性を示すものであり、「ミライ実現戦略 2030」は、「ミライ構想」の実現に向けて、この5年間(2025年4月から2030年3月まで)に特に注力する取組の方向性を示すものである。

「ミライ実現戦略 2030」の終了年がSDGsの達成を目指す2030年と同じであることから、双方の視点を連携させ、「ミライ実現戦略 2030」の実現に向けた取組を着実に推進することで、SDGsととよたローカルゴールの達成につなげていく。

また、第9次豊田市総合計画のローリングに当たっては、各施策の参考とする指標にSDGs達成度を評価する指標を取り入れ、各所属が施策や事業の評価や見直しの際にSDGsへの貢献を確認し、反映させていく。

##### ② 豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2030

人口減少下においても様々な主体とのつながりによって将来にわたって成長力を確保し、持続可能な活力あるまちをデジタルの技術の下支えによって実現することを目指す。その理念は第9次豊田市総合計画と一致していることから、2つの計画を一体的に策定する。

その基本目標の一つに「持続可能なまちづくり」を位置付けており、戦略の方向性はSDGsの理念とも一致している。

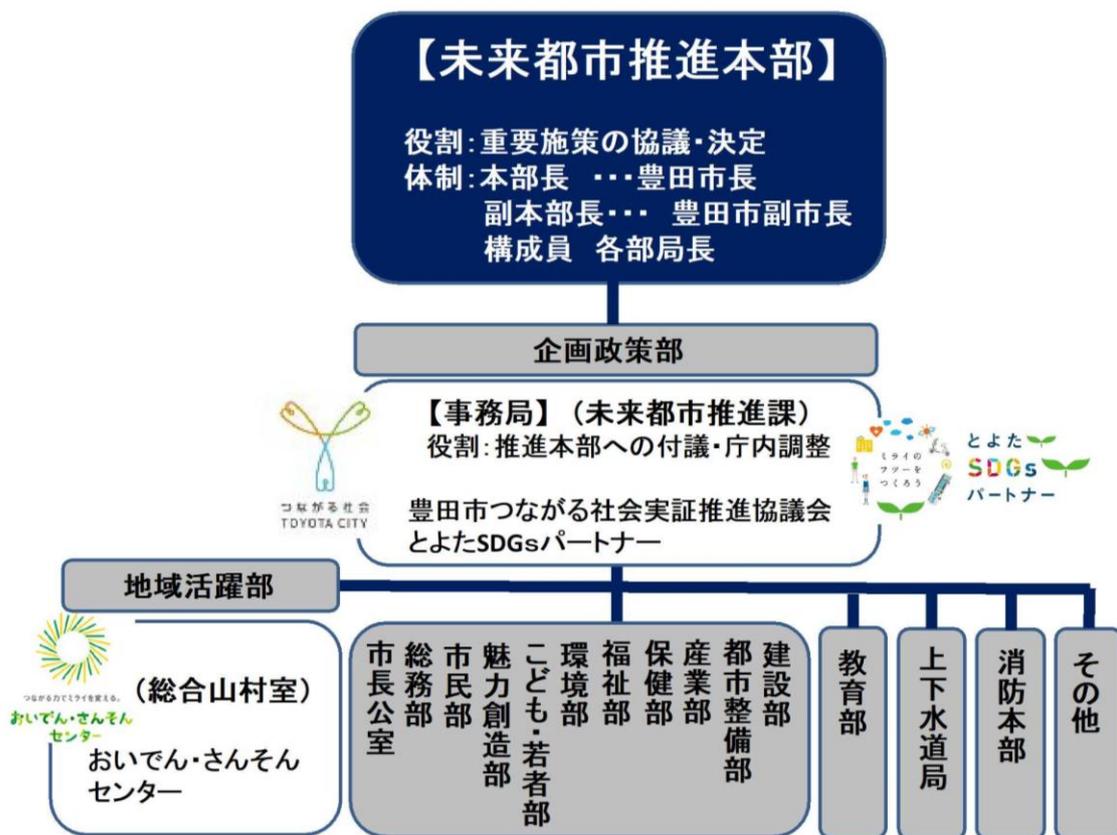
##### ③ SDGsの達成に資するその他の各種部門計画

第9次豊田市総合計画の策定に合わせて、本市の多くの部門計画が改定時期を迎えており、総合計画との整合の取れた計画となっている。また、SDGsを積極的に推進する本市の方針として、各種部門計画において、SDGsとの関係性を明記するなど、SDGsの理念を踏まえた計画を策定している。

## (2) 行政体内部の執行体制

- ・未来都市推進本部での協議・決定事項等は、庁内へ周知する。
- ・未来都市推進課を事務局とし、必要に応じて関係課を含め、WG等を立ち上げ検討する。
- ・豊田市つながる社会実証推進協議会、とよたSDGsパートナー、おいでん・さんそんセンターを中心に市民、企業、学術機関、団体、近隣自治体、国際関係機関等、多様なステークホルダーを巻き込みながら推進を目指す。(図表第8)

(図表第8) 豊田市行政のSDGs推進体制図



### (3) ステークホルダーとの連携

#### ① 域内外の主体

##### 3大プラットフォームの連携

都市と山村をつなぐ3大プラットフォームを中心に、多様なステークホルダーを巻き込み、公共施設等の活動拠点、市域全体を実証フィールドとして活用する。また、本市の強みである“人・地域・技術”や地域資源等を生かし、様々な地域課題の解決、持続可能な社会の実現を目指す。

#### ア 豊田市つながる社会実証推進協議会(加入団体:110団体 2024年10月末現在)

都市部を中心に人や企業と地域、技術をつなぐ実証・実装のプラットフォーム。産学官の多様な主体が連携し、エネルギー・モビリティ・ウェルネスの3分野の観点から課題解決を図り、新たな産業の創出と持続可能な社会づくりに貢献する。



#### イ とよたSDGsパートナー(加入団体:275団体 2024年10月末現在)

SDGs達成に向けて豊田市と連携した取組や活動を通じて、地域課題の解決やSDGsの普及啓発を図ることを目的とした企業、団体等の登録制度である。



#### ウ おいでん・さんそんセンター

都市と山村をつなぐプラットフォーム(中間支援組織)。

人・地域(活動主体)・企業等をつなぐことで、都市と山村双方の課題解決を目指す取組を展開し、それぞれのライフスタイルやライフステージに応じた自分らしい暮らし方を実現する。



#### ② 国内の自治体

##### ア 中部圏SDGs広域プラットフォーム

SDGs達成に向けた取組を中部圏においてけん引し、世界と直結する4つの組織(国際連合地域開発センター(UNCRD)、中部ESD拠点(RCE Chubu)、ローマクラブ日本、一般

社団法人中部 SDGs推進センター)が共同で設立した団体で、2020年11月に事務局を愛知学院大学に設置。このプラットフォームに特別会員として参画し、当プラットフォームが主催・共催する研修会、セミナーへの参加、参加する会員や自治体等とのネットワーキングを活用し、情報共有を図ることで中部圏を中心とした連携や活動へとつなげていく。

#### イ 次世代モビリティ都市間ネットワーク

次世代モビリティに関する横断的な自治体間連携や公民連携を行うために豊田市が設立。次世代モビリティの更なる普及促進を目指した取組を推進している。

#### ウ 中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議

2050年のカーボンニュートラル達成に向け、中部圏において大規模水素サプライチェーンの社会実装を地元自治体や経済団体等が一体となって実施することを目的に、2022年2月21日に愛知県が設立した会議。豊田市は、この会議に参加し、水素やアンモニアの活用促進に関して他自治体等との連携を図る。

### ③ 海外の主体

#### ア 国際連合地域開発センター(UNCRD)

国際連合地域開発センター(UNCRD)とは、国際イベントの共催や海外研修生の受入れ、職員派遣など密接な協力関係を構築しており、今後も本市のSDGs推進における重要なパートナーとして連携を深め、取組を促進していく。

#### イ 姉妹都市

姉妹都市であるデトロイト市(アメリカ)及びダービーシャー県等(イギリス)とは、市民や学生の相互派遣等により友好親善を図っており、この関係を生かして本市の取組を情報発信していく。

#### ウ バンドン市(インドネシア)

バンドン市とは、連携7分野(情報技術、交通システム、環境、社会福祉、教育、人的資源強化、行政改革)において、基本合意書を(2017年3月)、覚書(2019年6月)を締結し、豊田市における介護人材不足の解消を目指し、人材の交流と教育の連携を図っている。引き続き、SDGsの視点も含め、連携事業に沿った事業について推進していく。

#### エ グルノーブル・アルプス都市圏(フランス)

グルノーブル・アルプス都市圏とは、EUが実施する「EU国際都市間協力プロジェクト」においてパートナー都市に選定(2018年5月)され「スマートシティ」をテーマに交流を実施。今後もSDGsの視点も含め、連携事業の中において、事業を推進していく。

## (4) 自律的好循環の形成

### (自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等)

#### 豊田市 SDGs 認証制度

市内企業の SDGs 達成に向けた取組の加速化と自律的好循環の形成を目的として、内閣府「地方創生 SDGs 登録・認証等制度ガイドライン」に基づく豊田市 SDGs 認証制度を構築し、運用している。

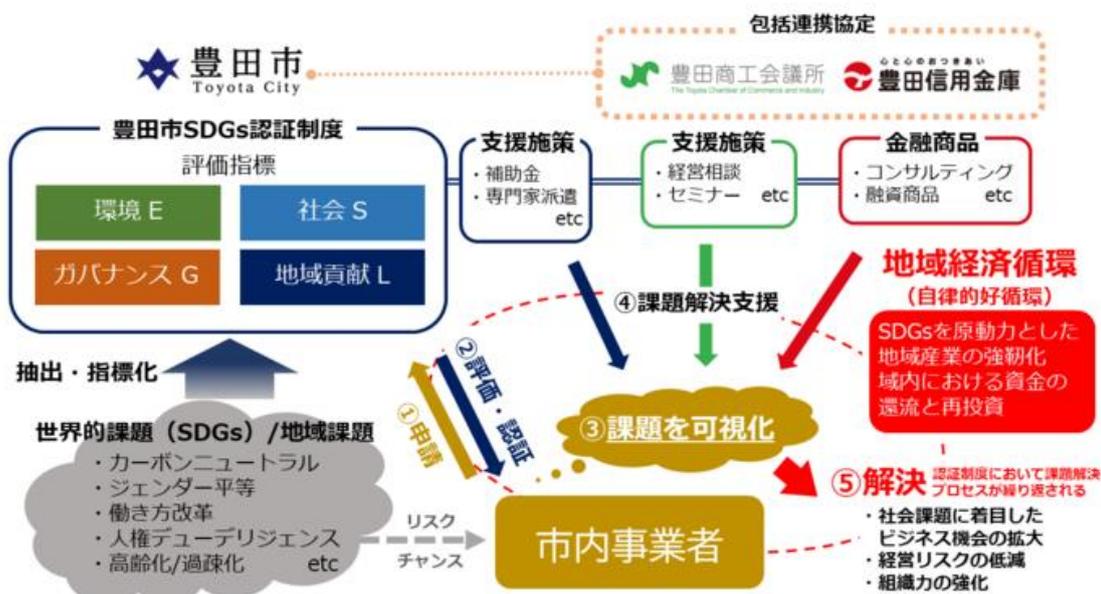
豊田市 SDGs 認証制度では、本市が作成した「環境」、「社会」、「ガバナンス」、「地域貢献」の 4 分野からなる評価指標に基づいて企業の経営領域における取組状況を評価し、達成度に応じてゴールド、シルバー、ブロンズの 3 等級の認証を行う。



等級に応じた特典を用意することで、より上位の認証を取得する意欲を高め、地域事業者による SDGs に資する取組の拡充を促進する。

また、取組に当たって事業者が直面する課題に対しては、包括連携協定の締結先である豊田商工会議所、豊田信用金庫と共に支援体制を構築し、実効力のある課題解決支援の実施を図る。(図表第9)

(図表第9) 豊田市 SDGs 認証制度の作用イメージ



**(将来的な自走に向けた取組)**

**その他の SDGs 認証制度等との連携**

愛知県内の近隣自治体に対して同様のスキームによる認証制度構築を呼びかけるとともに、制度間の連携について協議していく。

また、民間団体が全国規模の認証制度を構築する事例もあるため、当該制度との連携について協議・検討していく。

## 4 地方創生・地域活性化への貢献

超高齢化社会の進展、人口減少に歯止めをかけ、地域経済の縮小を克服し、将来にわたって必要な成長力を確保し続けるためには、市民が安心して暮らせるような持続可能なまちづくりと地域活性化が重要である。地方自治体にとって、SDGs は持続可能なまちづくりの観点から地方創生の実現に資するものであり、本市の SDGs 未来都市計画ともその理念は合致している。

人口も経済も右肩上がり成長してきた「成長社会」から「成熟社会」へと転換して久しくなり、本市のまちづくりにおいても、人口減少社会を前提とした発想や手法、仕組みが必要となっている。先人からの努力で培われてきたすばらしい歴史、文化、芸術、ものづくり産業、技術は大切に守りながら、時代の流れの中でしなやかに変化に適応し、先進技術を取り入れながら持続可能なまちづくりを進めていく。

中長期的に人口減少が進むことが予想される状況において、産業・経済活動の担い手不足、医療や福祉の仕組みの維持や山村地域を始めとした豊かな自然の保全が困難になることなど様々な地域課題に対して、SDGs の視点で取り組むことで、施策の最適化や地域課題の解決が期待でき、より良い地域社会の構築を目指していく。また、こうした本市の SDGs 達成に向けた取組は、SDGs 未来都市として積極的に発信し、普及展開することで、他の地域の地方創生にも貢献していく。

豊田市  
第3期SDGs未来都市計画（2025～2027）

令和7年3月